

諸達伺公報

○大政官第三十七號陸軍恩給令別備(前編ノ續キ)
第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可
令及ヒ恩給登錄簿ヲ内務大臣陸軍三卿ニ下シ内務卿ヨリ
管轄地方廳ヲ經テ之本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受
領ノ證ト爲シシム、恩給登錄簿ヲ下付スルノ前ニ於テ
陸軍卿ハ其恩給ヲ受ケ可キ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算
則ヲ示ス○第四十五條 退職及ヒ免職恩給并ニ扶助料下
賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル(一)准士官以上ハ計算書日
附ノ翌日(二)下士官ハ免官免役ノ翌日(三)寡婦(孤
兒)扶助料ハ當該軍人死後ノ翌日 ○第四十六條 恩給
及ヒ扶助料ハ一月四月七月十月ニ三箇月分ノ金圓ヲ大
藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス但其交付者
ハ恩給登錄簿ヲ披閱ノ上巨長ノ證セル本人生存書及ヒ
金額受領證書ヲ引替ヘ其金額ヲ交付ス、恩給若シハ扶
助料ヲ受ケル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額
交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願申可シ若シ期
日ヲ過ケル者ハ仍ホ元所在ノ地方廳ニ願申可シ○第四十
七條 恩給若シハ扶助料ヲ受ケル者權利消絶ニ屬スル時
ハ地方廳其恩給登錄簿ヲ收メテ内務省ニ出シ内務省ハ
之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省陸軍省ニ報告ス但扶助
料轉付可キ者アル時ハ恩給登錄簿ヲ收メテ更ニ扶助
料轉付ノ證ト爲シシム○第四十八條 恩給登錄簿ヲ受
領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ失ヒスルハ速ニ其旨
ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下付ス

第七條 賑恤金
○第四十九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス
(一)下士官職階或ハ職地ニ於テ公務ノ爲メ傷疾疾病ヲ受
ケ服役ニ堪ヘス免官除隊スト雖モ第十九條末項ヨリ輕傷
ニシテ免除恩給ヲ受ケタル者ハ其官階ニ應スル負傷增加
表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラス
ノ金額ヲ給ス(二)下士官平時公務ノ爲メ傷疾疾病ヲ受
ケケ項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ
一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラスノ金額ヲ給
ス(三)下士官服役實滿五年以上十一年未滿ノ者公務
ノ故ニアラスシテ傷疾疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪ヘス其營
業ヲ妨クルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切
斷ヲ受ケ若クハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷增
加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラ
スノ金額ヲ給ス(四)扶助料ヲ受ケ可キ寡婦孤兒又ハ父
母祖父父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳未滿又
ハ二十歳以上ト雖モ癡疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ教育スル
ノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少
カラス五箇年分ヨリ多カラスノ金額ヲ給ス○第五十條
前條ノ賑恤金ハ本人ノ情願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ陸
軍卿之ヲ詮議シ太政官特別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金
額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス

時事新報

在東京ノ清佛兩國開戦ス
昨日ノ官報ニ登載スル去ル十七日上海發ノ電報ヲ見ルニ
駐英清公使陳嘉謨ノ英領事館開戦ニ及ビタルヲ知ルベシ

其電報左ノ如シ

九月十七日午後十二時廿分上海發電報
本月一日二日ノ兩日佛軍千五百ノ兵ヲ以テ清兵四千人
ヲ「ボーン」ニ擊テ大ニコレヲ敗ル此役ヲ清兵奮闘シ死
傷甚多ノ聞ク所ニ據レバ其將亦傷ヲ被リ安南ノ將ハ
戰没シタリト又黑旗六旅佛軍ノ獲ル所トナレリ尋テ佛
軍ハ野營ヲ敷キテ「パラン」ニ進メリ
此報知ニ依レバ東京ハ既ニ清佛兩國ノ戰場トナリタルヲ
甚ク明白ナリ清佛ノ間ニハ未ダ宣戰ノ披露モナキニ突然
此交戦アルヲ見レバ其性質ノ公私孰レニ屬スルヤモ分明
ナラザル嫌アリト雖モ然レモ又清國ガ平素ノ舉動ヨリシ
テ察スルニハ堂々タル大國同士ノ開戦モ大抵皆此様ノ事
ヨリシテ漸クニ其歩ヲ進ムル例トスルガ如シ
回顧スレバ千八百三十九年ヨリ四十二年マテ引續キタル
彼ノ鴉片戰爭ノ如キ又千八百五十九年太浩砲臺ニテ英佛
使節ヲ要撃シ翌年兩國聯合ノ兵北京ヲ陷ル迄ノ戰爭ノ如
キ一モ公然宣戰ノ手續ヲ履マズ最初ハ唯一地方吏員ノ專
斷私闘ノ姿ナリシモノ何時カ變ニ双方ノ間ノ公戰トナリ
タル趣アルガ如シ近クハ伊犁地方ニテ清魯兩國交戦ノ時
ノ有様ヲ見ルベシ將軍左宗棠ハ數万ノ大兵ヲ率ヒテ該地
ニ駐在シ「ヤコブ」汗ヲ征討スルノ傍ニ境上ノ魯兵トモ戰
ヲ交ヘ其結果ハ終ニ清魯兩國ノ伊犁高麗ナルモノトナ
リ明治十二年ノ末魯國海陸ノ大兵支那海ニ集合シ來リ今
ニモ北京城ヲ衝カンズル勢ヲ示サル、ニ至リテ急ニ和ヲ
講ニ魯兵ヲ退ケタルヲアリ此等ノ先例ヲ見ルニ支那政府
ノ料見ニテハ兩國ノ開戦ニ宣戰ナドノ儀式ハ不用ナリト
信スル者ト云ハザルヲ得ズ其有様ヲ形容スレバ狡猾老練
ノ一翁アリ大ニ其隣人ニ警セント欲スレモ公然他ト角闘
スルノ勇ナシ依テ竊カニ家人ニ吩咐シ夜陰牆ヲ踰ヘテ隣
家ノ庭園ニ入り其花卉ヲ伐リ蔬菜ヲ蹂躪セシムルヲアル
隣人ハ其亂暴ニ驚キ急ニ來リテ主人ニ對面シ事ノ次第
ヲ訴ヘテ大ニ詰責スル所アフントスレバ主人ノ官容愆々
平日ニ異ナラズ或ハ平日ニ倍シテ怒罵思罵ナルガ如シ今
客ノ言ヲ聞クニ至リテ始メテ體面ヲ保ヒシハ以テノ
外ノ大事ナリ早々家人共ヲ取調ニテ嚴重ニ沙汰致サント
下、前ニ向ヒテハ言ヲ盡シテ陳謝謝諭シ後ハ願ミテハ家
人ヲ督促シテ益其亂暴ヲ息ニセシムルガ如キ趣アリスル
場合ニ際シテハ此隣人タル者公然喧嘩ノ挨拶ヲ待タズ我
モ亦我家ハ督促シテ庭園ニ押出シ力ヲ以テ此亂暴ハチ
取押ヘ時宜ニ由リテハ隣翁ノ禿頭ニ一拳ヲ加フルノ外ニ
工夫ナカレベシ

○淺野
カラス本月六日倫敦發ノ電報ニ清軍一万五千人境ヲ踰ヘ
テ東京ニ入りタリ佛國政府ハ強大ノ援兵ヲ東京ニ送ルコ
ト決シタリトアリシガ爾三日前香港ヨリ運シタル英字新
聞ヲ見ルニ此電報ヲ載リ且ツコレニ附記シテ此清軍入越
ノ件ハ無根ノ說ナルヨシ清國政府ノ公言スル所ナリトア
リ然ルニ今日ニ至リ東京ニ於テ四千ノ清軍佛軍ノ攻メニ
敗ラレタリトノ電報到來スルヲ見レバ清國政府ノ公言ア
ルニモ拘ハラズ兎ニ角ニ一種ノ清軍當時東京ノ境ニ入り
タルニ相違ナク倫敦ノ電報ハ信ニ近キモノナリト云ハザ
ルヲ得ズ清軍既ニ境ヲ踰ヘシ以上ハ佛國政府ガ更ニ援兵
ヲ送ラントスルモ亦必ズ事實ナルベシ左スレバ今日ノ東
京紛亂ハ佛人ト黑旗兵トノ鬪争ニ止ラズシテ佛蘭西安南
兩國ノ間ニ敵戰スルコトナリ安南ハ氣ノ毒ニモ怒テ其國
都ヲ攻落サレ純然タル佛國ノ屬邦トナルノ後今日ハ遂ニ
清佛兩國ノ間ニ交戦ノ端緒ヲ開カシムルニ至リタルモ
ノナリ今日以後ハ事態何様ニ變更シテ何様ノ結果ヲ生
スベキヤコレヲ豫言スルコト甚ク難シト雖モ今日我輩ノ見
ル所ニ依レバ在東京ノ佛軍ハ清兵ヲ起撃シテ漸ク雲南ノ
境ニ迫リ或ハコレヲ踰ヘテ内ニ入ルコトモアルベシ其騷擾
漸ク雲貴廣地方ニ傳播スル比ニ佛國ヨリノ新援兵モ來
着テテ兵備既ニ整頓ヲ告ケルハ南方ハ唯其守備ヲ嚴ニ
スルノヨリ止マリテ別ニ海陸ノ諸軍ヲ部署シテ北京ヲ侵
撃スルノ策ヲ定ムルコトアルベシ此際清國政府ニテ英國
ナドノ中裁ヲ承諾シ謹テ和ヲ講シ土地ヲ割キ賞金ヲ賂テ
佛國ノ要求ニ應スルコトモアラバ一應此局ヲ結ブコト得ベ
シト雖モ若シ其計急ニ此ニ出デズ飽クマテ春秋戰國時代
ノ舊筆法ヲ襲用シテ老練奇佞ノ外交法ニ因ラントセンコ
トハ遂ニ何様ノ禍ヲ惹キ出ズベキヤ知ルベカラザルナリ

雜報

○宮殿御保存 西京宮殿御保存の儀は曩に岩倉贈太政大
臣が世中同地へ出張し専ら盡力せる所ありて既お其着
手お及ばんとしたる際同公に病瀕の爲め歸京して終
に薨去りしより該事務の着手も暫く見合せの姿と成
り居しよしかるが今度彌々該事務局を設けん爲め先徳大寺
宮内卿を始め櫻井多田、北岡太政官書記官、堤麻見の両
宮内書記官には不日再び同地へ赴く筈ある由
○懸應 伏見宮は昨日午后四時華頂宮及各皇族方の
御息所を御自邸へ招待ありて饗宴を開かれし由
○伊藤參議 伊藤參議には福島縣管下へ出張を仰付け
れ參事院議官西園寺公良君は其隨行を命せられたり右
は同縣下津田代津水邊國ヶ原開墾事業及福島山形兩縣下
に跨ぐる新道落成の實現等を見分のために今日廿日出發
の事なりと云

○新任 目下
○忌引
○東京
○巡回
○同八日
○回中
○轉任
○前出
○州伊香
○局務
○佛清兩
○昇等
○祝賀
○他貴顯
○昇等
○佛清兩
○昇等
○祝賀
○他貴顯
○昇等